

**JAPANESE EVANGELICAL
MISSIONARY SOCIETY**

948 East Second Street
Los Angeles, CA 90012-4317
Tel: 213.613.0022
E-Mail: info@jems.org
Web: www.jems.org



JEMS - 日本語部 支援 : NICHIGO-BU SUPPORT

- 日本語部とスタッフのためにお祈りいたします。
- 日本語部の働きのために 毎月 \$ _____ 捧げます。(_____ 月 _____ 年まで)
- 今回 \$ _____ 捧げます。

Name _____ Phone _____

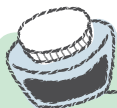
Address _____ City _____ State _____ Zip _____

E-Mail _____

チェックのあて先はJEMSとお書き頂き、Memo欄にNichigoとご記入下さい。

JEMS P.O.BOX 86047 Los Angeles CA 90086-0047 電話: 213-613-0022

※オンライン献金 <https://jems.networkforgood.com/projects/10875-minako> もご利用頂けます。



編集後記

西原 黎子

パンデミックがもたらしてくれた良きことの一つに、聖日に礼拝に出かけることができなくなって、様々な教会の礼拝をYouTubeで探索し、思いがけない教会や牧師との出会いをさせていただいたこと。と言っても対面がないので、初めまして、こんにちは、と声をかけることはできません。でもメッセージはしっかりと受け止め、励ましを得る幸せを感じます。

哀歌3章21節、22節「しかし、わたしはこの事を心に思い起す。それゆえ、私は望みをいだく。主のいつくしみは絶えることがなく、そのあわれみは尽きることがない。」

年を重ねていくと、体力の衰えと共に、哀しきかな、記憶力が不確かにな

ってゆきます。そのために絶えず「この事を心に思い起す」作業がよき頭脳訓練となります。ある牧師が、「覚えていないのか。もう忘れてしまったのか。患難の時に、あなたを励まし、慰めてくれた主のことを、そしてかき抱いて立ち上がらせてくださったことをしっかりと思い起こせ」と呼びかけられました。それゆえに、私は望みを抱くことが出来るのです。

クリスマスに向かって、主が私になしてくださったことを思い起こしていきたい。今日のこの日の平和と慰めを感謝することができるゆえに。

クリスマスおめでとうございます。





神様はご計画を立ててくださる

黒木 アドリアーノ師 ブラジル福音ホーリネス教団豊橋教会牧師

わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている。一主のことば。それはわざわざではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。エレミヤ書29章11節

クリスマスの時期になると思い起こすのは、世界のどんな保険も適用できないような状況におかれ、自分の人生のプランを考え直さなければならなくなった一人の女性の事です。天使がマリアに告げたことはすなわち、彼女の計画は全て一時中断するばかりか、一から立て直さなくてはいけなくなりました。自分の立てた計画を諦めるというのは、それだけでどんな人でも不安にさせるのに十分であるけれど、マリアに告げられたことはそれ以上に理解不能なことでした。

天使:マリア、恐れることはありません。マリア! あなたはとても祝福された方です。

マリア: どういうことですか? 御使い様、こんな所へお越しいただき感謝いたします。けれど、どういったご用件でしょうか?

天使: マリア、あなたは御子を身籠るでしょう。

マリア: どういうことですか?

天使: その御子は特別な方となります。神の備えであり、神がお与えになったものです!

マリア: いや、それは不可能です! 私はまだ結婚していませんし、男の人を知りません。

天使: それは主がなさる御業なのです。主がなさるのです。

マリア: 私は主のはしめです。私の体と人生に主の御心がなされますように。

婚約していたマリアにとって、結婚式は特に待ち望まれていた瞬間だったでしょう。しかし御使いの言葉はその計画の断絶を意味していました。更に、ヨセフがマリアのその状況が他の人に知られないよう気を付けていた(マタイ1:19)ことがわかります。それはただ婚約が破棄されるだけでなく、マリアの命が、存在が抹消される危機にあったことがわかります。マリアは主の召しにあずかり、主の働きを成し遂げるとする使命に置かれました。マリアにとっては全く想像もできないものでした。

それでも、マリアは単純に「御言葉の通りになりますように」と、ほとんど説明もない状況で、婚約がどうなるかも分からない状況で、家族や隣人たちの関係がどうなるか分からない状況で、保険も保証もない状況で、ただ単純に、迷いなく、神様のお言葉を受け入れました。そして、私たちが知っている通り、主はヨセフとの婚約をお守りくださり(マタイ1:20)、身の危険からもお守りくださりました(マタイ2:13)。

神様は子供が生まれる前から全てを備え、男の子は肉体的にも、霊的にも育ち、強くなり、最初のクリスマスの夜、御使いが言った言葉の一つ一つが現実となりました。「私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます」。イエスの誕生は私達に許しをもたらしました。イエスの誕生は私達が

神の家族の一員となることを可能にして、癒しをもたらす、生きる意味をもたらしました。

しかし、これら多くの恵みは二千年前に、たった一人の若い乙女が、自分の人生を主に委ねたことで可能となったことなのです。自分の幸福や安全、計画、人生そのものをマリアは主に委ねました。「私は主のはしめです。御心のままになりますように」。このように、誰かが主に全てを委ねる時には御業をなさり、その人だけでなく、周りの人たちにも、その世代の人たちにもその御心を実現させます。

しかし、本音を言うと、私自身、マリアと同じことをするのはとても恐れ多いことだと思います。何の準備もなく、主に「分かりました」と答えること。ただ単に、多くの困難が待ち受けているだろうと考えるだけで、恐ろしくなります。そして、何よりも恐ろしいのは、もし自分が間違っていたら、主が命じられたらと思っていたことが実はそうではなかったら? 数々の困難も、主が備えられた道と分かっていれば耐えられるものですが、それが主の御心なのかどうかという疑問は不安な思いをもたらします。それでも、私にとって大きな慰めとなるのは、例え何があっても、全ては主の御手の中にあるということです。たとえ、私が間違った道に進んだとしても、主は私の歩む道を正してくださいということなのです。

私たち家族は一年半前に里親としての歩みを始めました。2019年に私達は養子を受け入れるプログラムに参加を試みましたが、義親として認められませんでした。その後、妻のまゆみが一定の期間子供を預かるプログラムについて調べ、少し躊躇しつつも申し込みました。一年の訓練期間の後、児童相談所が私達を里親として認定してくれました。2020年の始めのことでした。沢山の記入用紙を受け取り、どんな子供を預かりたいのかを聞かれました。どんな年齢、どの性別の子供でも受け入れる気持ちはありましたが、自分たちの限界や子育ての経験のなさを鑑みて、3歳から6歳の子供を希望しました。なぜなら、この年齢なら、日中は保育園に通わせ、自分たちの休む時間も確保でき、そしてこれぐらいの歳なら、記憶や思い出の形成もまだ初期の段階であり、その子供の思い出の一部となることができると考えてのことでした。それから6カ月、何の連絡もないままでした。

そして、まゆみがかもって自分たちの意欲を児童相談所に強くアピールするために、広い家に引っ越すことを提案してきました。しかしなかなか希望するようには進みませんでした。そして、ちょうど2020年の9月半ばに、まゆみが児童相談所の集まりに出て「中高生の女の子を一人預かってみたいかと聞かれたんだけど、どうする?」と聞いてきました。「小さい子ではないし、たぶんそんなに長くは一緒に住まないだろうし、初めてのことで、いいんじゃないか」。そうして、女の子はやってきました、翌日に。笑顔が印象的な子ですが、その笑顔の裏には過去の沢山

の傷跡がありました。それから、一緒に暮らし始めてもう一年になります。今月、彼女が今後も私たちと一緒にいられるかが裁定で決まります。彼女が来てから、いくつもの夜を寝ずに過ごし、喧嘩もしました。先週、ひどい言い争いをして、彼女は二時間ほど泣いた後、涙ながらにこう言いました。「私を感じることなんて分らないでしょ。私が学校でどんなことになってるのか、毎日どんなに恐ろしいのか、分からないでしょ!!!」。彼女に対して、私はこう答えました。「本当だね。僕は君が経験してきたことを経験していない。だから、君がどんな気持ちなのかは一生分からないかもしれないと思う。でも、神様は君をここに連れてきてくれた。だから、僕は君の友達になりたい、お父さんになりたい」。

主は、私たちに、主の御心に「はい」と答えることがどんなに素晴らしいものかを教えてくれています。それから、私たちは引っ越し、家をローンで購入しました。その家は、私たち全員どころか、更に人数が増えても大丈夫なぐらい広い家です。更に素晴らしいことに、私たちがこの家を見に行った時、彼女も一緒に行き、壁の色を一緒に選び、自分の部屋を自分で決めました。

一カ月前に、中高生の里子を預かっている里親たちの集まりがありました。たった7人の集まりでした。他の里親たちの話を聞いていると、このグループの中では、我が家の里子が最年少だということが分かりました。我が家以外は、16、17歳の青年の里子ばかりでした。話を聞いていても、悩みや障害は、私たちが今年経験してきたものとは全く違うものでした。すると一人の女性が相談所の人に自分ができることはもう限界だと、このような状況にある青年に自分ができることはもう何もないと泣きながら訴えました。他の女性は相談所からもっと里親に対するサポートはできないかと質問しました。すると、相談所側の返事は「皆さんに多大なことを求めているのは承知しています。彼らの様に、悲しい過去を背負っている青年たちの世話をするというのは単純なものではないことも理解しています。しかしこのような青年たちが我々の助けを必要とする時には、預けられる施設は全て満員で、空きを待つことになってしまい、それは1年程かかることもあります。なぜなら、青年たちは小さな子供たちと一緒にするわけにはいきません。自分のスペースとモニターが必要になります。そして、里親のほとんどは大きな青年達を受け入れません。だから、たとえ経験が浅くとも、皆さんがこの青年たちを拒絶せずに受け入れることを期待しているんです」。

そして、一カ月が過ぎ、沢山の祈りの末、私達は「このよき知らせを持ってきた御使いに」「はい」と答える決心をしました。児童相談所にその青年たちを受け入れる決心を伝えました。それは、自分たちが良き働きができると信じているからではありません。自分が大した人間ではないことは分かっています。しかし、主が共におられることを信じています。マリアと、ヨセフが主にゆだねたように。そして、この子供たちにイエス様の愛を届けたいと思っています。

クリスマスおめでとうございます。共にイエス様の福音を世界に届けましょう。



ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。

大塚 マリ ベニスフリーメソジスト教会日本語部牧師

コリント人への手紙第一-15章10節

クリスマス！ コロナ禍でのクリスマスをお客様はどのように迎えているのでしょうか？ 私はニューヨークのロックフェラーセンターの前に毎年飾られるクリスマスツリーが点灯されると、クリスマスの時期がやってきたことを感じます。お母さんとの三つの約束を忠実に守って財をなし、その富を世の中のために用いたジョン・ロックフェラー。そんな信仰者が育った国に置かれている幸いを覚えます。

私が神学校に入学したのは60歳でした。神をもっと知って人に伝えたいという思いがいつもありましたから、いつか神学校で学びたいという気持ちがありました。しかし実際に行けるとは考えていませんでした。入学式で初めて関西聖書学院へ着いた時、満開の桜が私を待っていてくれました。あまりに見事な景色に圧倒されて一時間位ボーとベンチに腰掛けていたことを思い出します。それまでの私はお花をゆっくりながめる余裕もない生活をしていました。神の前に静まりたいと願って神学校に入りましたが、それまでよりも忙しいスケジュールで、「走りながら考えなさい」と学院長に教えられました。

一年生の時に、千田次郎先生の授業を受けて牧師になる召命が与えられました。三日間連続の講義でした。千田次郎先生は始終ニコニコしながら教会の大切さを語ってくださいました。ギリシャ語、ヘブル語の授業があることも考えずに入学した私でした。学院長夫人が入学の挨拶で「自分の力でやるものではありません。神が共にいて成してくださいませ」。この言葉がなければ神学校を卒業できなかったでしょう。自分の子

どもと同じような年頃のルームメイトと一緒に部屋で暮らすことで鍛えられた部分があります。若い世代の考え方との相違を知りました。物事をサラッと受け止め、サラッとこなすやり方は自分にはないものでしたから参考になりました。神学校ですから規則が厳しく、男女交際は禁止でした。私は若くなくて良かったです。

訪問牧教会学では成長している教会を訪ね、牧師の話や聴くという貴重な体験ができ、なぜ成長するのが理解できました。教会によってそれぞれの雰囲気があり、自分はどの教会のやり方が合っているだろうかと思われました。デイケア、幼稚園、カフェ、老人ホーム、ブックストアと教会に併設されている施設が多かったです。日本の教会はスリッパに履き替える所がほとんどなので慣れないと面倒です。

私は教団の牧師試験の時に、「神学校で学んだことで一番良かったことは何でしたか？」という質問をされ、「講師の先生方の人格です」と答えました。イエス様のような人格者に出会えたことは何にもまさるものでした。間違っても、決して否定されずに正しい答えに導かれる、そのやさしさを自分も真似ていきたいです。

関西聖書学院は宣教師になる方も多く、世界中に散っていますが、最近では私もアメリカに宣教師として派遣されているような気になっています。三年生になると宣教旅行がありますが私達はベトナム宣教でした。軍服姿の多い共産国でクリスチャンの方々との出会いました。夫を戦争で亡くした婦人が多かったです。お母さんを助けるために子供

は早くから都会へ出て働きます。村への人の出入りが監視されているからと、耕運機の荷台に乗って村に入りました。真っ黒に日焼けした耕運機の運転手が迎えに来てくれました。数年前までは電気がなかったという村の教会には数家族が住んでいました。牛や、鶏たちと一緒に。お水はバケツを地中に下ろして汲んでいました。日本やアメリカでは想像できないほどの貧しさでしたが、温かくもてなしてくださり、ベトナム人の文明に汚されていない良い面を知りました。お米、カカオやコーヒーを育てながら自給自足の生活をしているようでした。教会に住む人たちの面倒を見ている牧師が一番真っ黒に日焼けしていました。「鉄は鉄によって研がれ、人はその友によって研がれる。」(箴言 27:17)

私は今年から再び神学生になりました。コロナ禍によってZOOMで学院の授業が受けられるようになったからです。CPRC(教会開拓、刷新コース)で学んでいます。それぞれが神の働き人なので共通の課題があります。励まされます。献身者としての自分を常に見つめ学び続けていきたいです。次なる献身者が起こされるように願っています。

かつては神の存在を知らず、罪に翻弄された生活をしていました。それゆえに長い暗闇の時を過ごしました。その闇の中で神に出会い、神が今も生きて働かれていることを知りました。このような私を神の恵みの命を生きる者としてくださった神に感謝し、イエス様のご降誕を喜びをもって迎えます。

神が起こされ実現される願い

あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、
かつ実現に至らせるのは神であって、
それは神のよしとされるどころだからである。ピリピ人への手紙2章13節

福田 知里



私はオハイオ州シンシナティに住んでい
ます。Kenwood Baptist Church
に所属し、その傘下のKenwood Japanese
Fellowship(以下KJF)で奉仕しています。

KJFはユニークな歩みをしてきた集会です。
二十数年前、シンシナティには日本語礼拝を
行う教会がなく、私と主人は、明石バプテスト
キリスト教会の故山中芳樹牧師の紹介で、隣
接するケンタッキー州レキシントン日本語教
会に通っていました。当時、私は求道者で、
教会やバイブルスタディに出席し充実した日
々を送っていました。ところが、自分のうち
の羨ましいという思いが醜い感情を起すこ
とに気づかされ、イエス様と共に歩む決心
をし、1999年、レキシントン日本語教会で渡
辺聡牧師(現 東京バプテスト教会牧師)に洗
礼を授けていただきました。翌年、主人も
神さまに招かれて、信仰を告白し、Kenwood
Baptist Churchのジョン・バスカム牧師より
洗礼を受けました。その後しばらくすると、
レキシントンのマーリン子姉に、「福田さん、
日本へ帰らないで、シンシナティで教会を始
めなさい」と言われたのです。「クリスチャン
になったばかりの私達が？」と驚いたのは言
うまでもありません。しかし神様は、マー
リン姉の信仰に答えられたのです。当初、2、
3年の駐在予定だった主人は、上司の勧めで
アメリカ本社へ移籍となりました。教会設

立計画も、私達のアメリカの親のようなバス
カム牧師夫妻の祈りとサポートをいただき、
マーリン姉とも祈っていきました。そして
2001年9月、グレートシンシナティ日本語
礼拝が始まりました。専属牧師のいない超
教派の独立した集会でしたが、神様はご自身
の豊かさのなかから私たちの必要を与え続け
て下さいました。ケンタッキー州やインディ
アナ州、オハイオ州コロンバスから牧師や宣
教師の方々が、メッセージを取りついでく
さいました。Kenwood Baptist Church
も惜しみなくサポートをしてくださり、その
後、2019年に新たなコーリングで、会衆の
一部は新しい場所に教会を始め、他の一
部はKenwood Baptist Churchの傘下で
Kenwood Japanese Fellowship(KJF)とし
て歩み始めました。

コロナ禍にあつて様々なものが止まっ
たように感じるなか、神様は「既にあるもの
に目を留める」ことを教えて下さいました。そ
れは、人との繋がりでした。オンラインツ
ールを通して、笑顔によって、繋がりが生ま
れてきました。また規制緩和に伴い人と会
えるようになり、繋がっていることを改
めて喜ぶことができました。そんな貴い
繋がりのお話をいくつかご紹介したい
と思います。

まず、杉田政志牧師がスピーカーの「茶
話会」や、「今を楽しむペアレントング会」など

が生まれました。カリフォルニア州の三宅
美姉の計らいで藤本三奈子姉と共にzoom
を通して杉田師をお招きしています。日本
やカナダからも参加者があり、杉田師
のパワフルなメッセージと時空を超えた
フェローシップでイエス様にある希望を
分かちあいます。また、先月は、母教会
で日本人への宣教をしているアメリカ人
の方々を招き、デイビッド・パルマー主
任牧師を交え、対面でフェローシップの時
を持ちました。彼らがホストするESLや
バイブルスタディ、クラフト会などに参
加する日本人がシンシナティには多く
おられるのです。このフェローシッ
プは、教派や教会を越え、地上に普
遍的に広がる教会の無限大の働きの中
で互いに繋がり、麗しい関係を築いて
いくのです。これからも各地域で働か
れている兄弟姉妹との繋がりが広がり、
一緒に福音を伝えていくチームとして
成長していきたいと願っています。

KJFでは信徒によるスモールグループも
あり、私もそのひとつ、「女性の学び会」
をホストしています。双子の娘が誕生
して間もなく、友人らとバーバラ・バ
ウマン宣教著『見つけた子育ての喜
び』を読んで悩みを分かち合ってきた
のが始まりでした。この会の参加者
には教会に行かなかったという方も多
くおられ、その殆どは数年滞在の後
に帰国されます。毎回、変わる参加
者の顔ぶれに、神様からのサプライ
ズのプレゼントを頂いているような思
いになります。参加者一人一人の心
に神さまが願いを起し集めて下さっ
ているでしょう。今はオンライン集
会で4種類の本から興味に合わせて
クラスを選んでもらっているのです
が、20年前、この会開始のきっかけ
となる本を贈ってくれた山田由更さ
んも日本から参加され、再会の喜
びを感じます。

この20年間の歩みにおいて、神様
がマーリン姉に与えられた願いが
実を結びつつあるように思います。
またコミュニティに新鮮な風を送
り続けていることを思います。神
様のご愛が溢れ流れ続けるなか
に置かれていることに喜びと感謝
を感じます。私達の主イエスキ
リストの御名をこころより讃
えま。そして、この記事を読んで
くださっている方とも繋がる日
が来ることを期待して楽しみに
しています。

JEMS 日語部

コーディネーター 藤本 三奈子

メリー・クリスマス！ 尊い主の御名を賛美致します。皆様のお祈り、経済的ご支援を頂き、また主の大きな憐れみと恵みによって、2021年におきましてもJEMS日語部のミニストリーの働きに仕えることができましたことを感謝しております。この一年JEMS日語部を支えて下さった皆様一人、おひとり心より感謝申し上げます。来る新年の2022年も、コロナの感染に注意しながらの働きが求められることと思いますが、主が働きを祝福して下さい、働きの中にみわざを現わして下さいと願っております。主の導き、知恵が与えられますようにお祈り下さい。

お知らせ 第73回マウント・ハーモン修養会 2022年6月26日(日)-7月2日(土)

日語部講師として日本を代表するワーシップリーダーの一人である長沢崇文カナン・ブレイズ・チャーチ牧師を日本からお招きします。素晴らしい自然の中で、共に主を賛美、礼拝致しましょう。申込み:1月中旬より開始予定

